

# 国立国語研究所学術情報リポジトリ

## "Kanjiru" As Marker of Metaphor : Relation between Grammar and Metaphor

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-02-14 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 菊地, 礼, KIKUCHI, Rei メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.15084/00001663">https://doi.org/10.15084/00001663</a>

## 比喩指標としての「感じる」-文法形式と比喩の関係-

菊地礼 (中央大学大学院文学研究科)

### “Kanjiru” As Marker of Metaphor

#### Relation between Grammar and Metaphor

Rei Kikuchi (Graduate School of Letters, Chuo University)

#### 要旨

本発表は分類語彙表番号を付与した現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ) を用いて収集した比喩表現データを分析・考察する。中村 (1977) 『比喩表現の理論と分類』によれば直喩の指標は7類82種359号と多岐にわたる。しかし、直喩の典型である「よう」以外の分析はなされていない。本発表ではコーパスを用いた網羅的な用例収集を行い、分析に耐える量を確保する。その一例を本発表は動詞「感じる」によって示す。「感じる」は「AガBヲ」「AヲBト」「AヲBデ」等の10の構文を作るが、「AニBヲ」「AヲBニ」等の8つの構文で比喩を表わすことが可能である。しかし、直喩と認定できる例はその中から限定される。これは「感じる」が比喩指標として機能することが例外的事例であることを意味する。モダリティ形式としての文法化が比喩指標には求められるが、「感じる」は特定の構文環境においてのみ不完全ながら文法化を果たし、比喩指標と同様の機能を得る。

#### 1. 問題点と目的

直喩は、「AハBノヨウニCダ」等の形式によって比喩を表現する。「ヨウニ」が比喩を明示 (鍋島 2016) するものであるとして、その明示性をもって隠喩と区別される。その明示を担い、直喩を特徴付ける形式が比喩指標である。比喩指標の範囲を検討したものとして中村 (1977) が挙げられる。中村 (1977) は、動詞から接辞に至るまで441種 (82種359号) の語を比喩指標として認定した。しかし、比喩指標の典型である「ヨウ」 (木下 2003, 小松原 2016) 以外の指標については、後の研究において検討されることは少ない。比喩指標の認定基準が明確でないためである。

比喩指標の分析が進まない主たる原因は用例数の不足である。中村 (1977) でも文学作品50篇から収集しているが、比喩指標の典型例「ヨウ」は50篇3875例出現するのに対し、D-1類の「感じる」は3作品4例しか収集されていない。本発表では、現代日本語書き言葉均衡コーパス (以下BCCWJ) を用いた網羅的な直喩表現の収集によって、分析に耐える量を確保する。これにより、表現形式の類型化、比喩用法の記述を可能にする。

本発表は、「感じる」を対象とする。第一に、非比喩用法と比喩用法、それぞれの構文的な差異を明らかにする。比喩になり得る構文、なり得ない構文を選別する。第二に、「感じる」を比喩指標として用いている例を抽出し、「感じる」が比喩指標として機能する条件を明らかにする。

## 2. 用例収集

菊地ほか（2018）は分類語彙表番号を付与した BCCWJ を用いて「感じる」を含む比喻文の収集を行ったものである。そこで得られた用例を本発表の分析に用いる。収集の概要は次のとおりである。

### 2.1. 比喻指標

中村（1977）の比喻指標要素をキーとして用いる。比喻指標要素は次の【表 1】のように D から S の 7 類 82 種 359 号に分類される。本発表ではその内 D 類 1 種に属する「感じる」を対象とする。

【表 1】：比喻指標要素の種類と数

類	種数	号数
D（動詞）	18	83
F（副詞）	19	86
J（助詞）	8	30
K（形容詞・助動詞）	13	49
M（名詞）	8	53
R（連体詞・接頭辞）	5	12
S（接尾辞）	11	46
合計	82	359

### 2.2. コード付与

また、用例の収集に先立って、これらの比喻指標要素に分類語彙表番号の付与を行った。「感じる」には「2.3001」が与えられる。コード付与によって、中村（1977）に登録された比喻指標要素と同じ意味に分類される語もキーに含めることが可能となる。

### 2.3. 対象資料

用例収集対象には、分類語彙表番号を付与した BCCWJ（Maekawa et. al. 2014）の約 27 万語（2017 年 10 月時点）を用いた。これらのデータから、語彙素「感じる」を含む用例と、「感じる」と同じ分類語彙表番号（.3001）を有する短単位・長単位（「感じ」「感覚」「実感」など）を含む用例を検索・収集した。この結果、比喻指標要素〈感じる〉を含む指標比喻用例の候補として、「感じる」289 例、同意味の短単位 424 例、長単位 78 例を得た。あわせて指標比喻候補 791 例である。

### 2.4. 比喻判定

この 791 例について用例の比喻指標要素の前後文脈を確認し、指標比喻であるか判定を行った。〈感じる〉指標を含む比喻用例は 31 例であった。うち、「感じる」は 21 例、「感じる」と同じ分類語彙表番号を有する用例は「感じ」5 例、「感覚」3 例、「実感」1 例、「感ずる」1 例という分布となった。中村（1977）における 4 例を超えるものであり、出現する構文の記述の妥当性を高めることができる。このように出現率は高いとはいえないが、コーパスを用いることにより従来の手作業による収集以上の例を集めることができる。

本発表は格や構文という文法的側面に着目するために「感じる」21例を用いる。

### 3. 分析

本発表は、比喩を次のように規定する。第一は、二つの事物・事柄が事実否定的な関係にあることであり、第二にその結び付きによりイメージが具体的になる場合である。「感じる」の場合、前項に来る語が通常感覚することのできないものであり、喩えられる事物にイメージが付与された例を比喩用法として認定した。「寂しさ」のような感情や「痛み」のように実際に感覚可能なものを前項に持つ例は非比喩用法とした。

#### 3.1. 「感じる」の構文と意味

非比喩用法における「感じる」の用例を格関係に基づいて整理すると、次の10構文にまとめられる。

【表 2】：非比喩用法における「感じる」の取る構文<sup>1</sup>

	類型	用例数 <sup>2</sup>	類型例
①	<主体>ガ<対象>ヲ	120	30代で独身の男の人ガ寂しさヲ感じる
②	<主体>ガ<対象>ト	43	全ての人ガ「理想の病院」ト感じる
③	<対象>ニ<思考>ヲ	36	結婚ニ「精神的なやすらぎ」ヲ感じる
④	<主体>ガ	24	
⑤	<対象>ガ<思考>ト	21	このような商品をお客様に提案すること ガ罪にさえなるト感じる
⑥	<主体>ガ<対象>ニ	10	私ガひとりぼっちニ感じる
⑦	<対象>ガ<思考>ニ	6	家事ガ負担ニ感じる
⑧	<対象>ヲ<主体>ニ	4	温かな愛に満ちた腕ヲ体ニ感じる
⑨	<対象>ヲ<思考>ト	2	家ヲ新しいト感じる
⑩	<主体>ニ<対象>ガ <思考>ト	2	国民ニ科学技術や科学者等ガ身近な存在 ト感じる

ガ格が感覚主体を表わす場合（①②④⑥）、主体の心理・感情を感覚対象として取り、それをヲ格やニ格が目的語や補語として表わしている。しかし④は目的語や補語を取らず、主体の内部感覚を示す自動詞的用法である<sup>3</sup>。

<sup>1</sup> 構文を整理するに当たり、中村（1977）における類型化の方法を用いた。これにより受動・使役・可能などのヴォイス付加形式や修飾関係の表現は基本形の格によって整理した。また、「感じる」の前項が形容詞・形容動詞・助動詞の場合、表現として適格となる格助詞に置換した。

<sup>2</sup> 用例は2.3.にて得た「感じる」289例から比喩用法21例を除いた268例である。

<sup>3</sup> 次のように性的な快感を得ている例などが挙げられる。

彼氏が私のことを遊んでる女なんじゃないかと疑っているようです。実際遊んでる理由に上記の原因はありません。すべて感じている結果です。それを無知な彼氏に教えてやりたいのですがどうしたら理解できるでしょうか？

(OC15\_00007-890)

- (1) 30代で独身の男の人が寂しさを感じるときってどんなときですか。映画館とかで並んで入館を待つとき・・・二列で並んでと言われるけど・・・自分だけが、一列の時あとは、花火大会を一人で見に行く時・・・ディズニーランドに行きたくても一人では行けない時 (…)

(0C09\_04688-160)

- (2) 日本でも従来の病院の概念を覆すような病院らしくない病院ができ始めている。次の特集では、具体的な取り組みを紹介したい。もちろん、すべての人が「理想の病院」と感じるわけではないだろう。だが、かなりの人が「いい」という評判の病院なのである。

(PM11\_00322-31030)

- (3) 硫化水素で命を絶つ若者が多いですね。この世で生きることは苦しいのだろうと、頭ではわかります。たくさん人がいてもひとりぼっちに感じる冷たい日々を過ごしている人もいるかもしれません。

(OY14\_02015-1700)

(1) は「30代で独身の男の人」が映画館に並ぶときといった特定の状況下で「寂しさ」を抱くことを述べた文である。主体内部に生じた感情を「感じる」によって受けている。

(2) は「わけではない」と否定形を伴うが、従来の病院とは異なる取り組みを行う病院に対して「理想の病院」であるとの判断を下すものである。(3) は自殺する若者が抱く生き辛さを語った文である。周りに人がいても、主体の主観の中では孤独感を抱いていることを「ひとりぼっち」によって表わし、それを「感じる」によって受ける。

(1) (2) (3) は、話者の内面に生じる感情をヲ格やニ格で受ける (1) (3) と、ある対象についての主体の判断をト格で示す (2) に分けることができる。また、次の (4) のようにヲ格に「痛み」のような感覚対象を五感により知覚する例もある。

- (4) 玲子さんには話していないが、正弘さんも自分の体の変化に戸惑っているという。急に白髪が増え始め、歩く時にひざの痛みを感じるようになった。

(PN2c\_00006-7380)

ガ格が感覚対象を表わす場合 (⑤⑦⑩)、その対象に対して主体が抱く思考や印象を「感じる」によって受ける文となる。それは感覚対象をニ格・ヲ格で表わす場合も同様である (③⑧⑨)。

- (5) 男が払うのが「当たり前」みたいな連中やっぱりそういう考えの子は男性に頼るといふか、金・金・・・ブランド・・・とねだる女が多いと感ずます将来を考えたら、結婚はオススメしないですよ自分で稼いで買おうという子でないと、ダンナさんの稼ぎにブブブ文句ばかり言う嫁になります

(0C09\_04681-1700)

- (6) 「家事が負担に感じるから」にいずれか1つ以上回答した人の割合。

(0W6X\_00069-81430)

(5) は男性に対して金銭やプレゼントを期待する女性についての印象を述べた文である。

「女性」は「感じる」の対象でありガ格で示され、それに対して主体は「多い」と判断を下している。(6)は、生活に関するアンケートの設問の一つである。対象である「家事」はガ格を、それに対する判断である「負担」はニ格で示されている。(5)(6)ともに対象に対する判断を示している点で(2)に近い用法となる。

これらをもとに「感じる」の語彙的意味を記述するとすれば次のようになる。主要な意味項目は《》で括った。

- (7) 「感じる」は主体の《内部》に生じた感情・感覚を表わす。感覚を表わす場合、《身体的》な知覚を表わす。また、ある対象に対して抱いた主体の《判断》を表わすこともできる。

格関係は【表2】に示したように複数に渡るが、そこで示されている意味は、感情・対象・判断のいずれをどのように知覚したかが重要となることを(7)は示す。これをもとにして「感じる」が取る構文の意味パターンを次のようにまとめることができる。

- (8) — ① <感覚主体>の内部に感情・感覚が生じる  
 ② <感覚主体>が<感覚対象>を五感によって知覚する  
 ③ <感覚対象>に対する判断を示す。

主体をニ格によって表わす場合もある(⑧⑩)が、⑧は主体の外部に存在する事物を自身の皮膚感覚によって知覚する点で(8)②に、⑩は感覚対象に対して「身近」と主体の心理的な把握がなされるものであり(8)③と同様のタイプの構文として見なすことができる。

それぞれのパターンにおける感覚主体と対象、判断の関係は次のように図示される。

【表3】:「感じる」における主体・対象・判断

	構文	主体	対象	判断
①	<感覚主体>の内部に感情・感覚が生じる	○	×	×
②	<感覚主体>が<感覚対象>を五感によって知覚する	○	○	×
③	<感覚対象>に対する<判断>	○	○	○

構文としての明示よりも、その構文を成立させるために必要な要素を○で示した。このような構文の持つ意味的パターンのうち、比喩用法として用いられるのはいずれであるか、またその原因となる要素を次節にて検討する。

## 3.2. 比喩用法における「感じる」

比喩用法において「感じる」を用いる場合、次のように8つの構文を形成する。

【表4】：比喩用法における「感じる」の取る構文

	構文	用例数	類型例
①	<対象>ニ<思考>ヲ	7	日差しニ質量ヲ感じる
②	<主体>ガ<対象>ヲ	5	人ガ時の流れヲ感じる
③	<主体>ガ<対象>ト	3	人ガ心を洗われたト感じる
④	<対象>ガ<思考>ト	2	会議ガ「大切な心の引継ぎ」であるト感じる
⑤	<対象>ヲ<思考>ニ	1	色とりどりの草花ヲセピア色ニ感じる
⑥	<場>カラ<対象>ヲ	1	表情カラ透明な情熱ヲ感じる
⑦	<主体>ガ<対象>ヲ <場>デ	1	ユーザーが何を考えているかヲ肌デ感じる
⑧	<対象>ト<対象>ガ <思考>ト	1	数学ト少女マンガのイラストガ同じくらい美しいト感じる

非比喩用法との顕著な差異は【表2】④「<主体>ガ感じる」のような目的語を取らない構文が存在しないことである。これは「感じる」が比喩用法となる場合、目的語を最低限の要素として要求することを意味する。これにより【表3】①が比喩となり得ない。

⑥⑦は、対象が存在する場や感覚する部位をカラ格、デ格で表わしているが「<対象>ヲ」感じる点では②と同じ構造を持つ。⑧もまたト格により事物が並列されるが「<対象>ガ<思考>ト」と同構造である。残る①②③④⑤は、感覚対象に比喩的な思考・印象を抱く①④⑤、主体が比喩的に表現された対象を感じる②、比喩的な判断を表わす③のタイプに分かれる。それぞれの用例は次のようになる。

①→ (9) そのイチローの「自分自身のスタイル」を見ていると、ストレッチなどの所作の手順やグラブとバットの取り扱いも含めた型とリズムに、日本古来の武術の修業者、更には茶道など日本文化のさまざまな分野の型と呼吸に通ずるイメージを感じてしまうのである。

(PN4g\_00009-16800)

②→ (10) ゴツゴツとした黒い地面が広がり、ところどころにまっ黒にこげた木の切れはしが落ちている。火口だった場所は、すり鉢のように深くえぐれている。けれど、今はそこに緑の木がのび、時の流れを感じさせる。

(PB1n\_00024 - 6750)

③→ (11) 奥多摩のことを書くのはもうこのへんにしておこうかね。さすがは奥多摩です。いろいろな光景に心を洗われたと感じております。

(OY14\_03713-520)

(9) は、野球選手イチローのプレイスタイルを見て、それを刺激とした連想から日本の伝統文化のイメージを想起する。イチローのプレイと日本の伝統文化は属するカテゴリーが異なるものであるが、後者と前者を関係付けることによりイチローが伝統文化に一脈続

くという新たな観点を喚起する点で比喩となる。被喩辞<sup>4</sup>「イチローのスタイル」と喩辞「日本文化のさまざまな分野の型と呼吸に通ずるイメージ」が相互比較されることにより比喩性が生じる。しかし、「イメージ」の具体性を扱うものと解釈することも可能であり、境界的な例である。

(10) は噴火が起きてから数年後の火口の情景とそれに対する話者の心理を描いている。噴火により多くの木々が焼失した場所に木が生長し始めており、その情景に時間の経過を感じとっている。「時の流れ」は慣用的であるが「流れ」により時という抽象体を流体という具体物へと転化する。その結果として川の流れに身を置くようにして時の経過を感じ取るように表現する。

(11) は、奥多摩に観光に行き、その豊かな自然に癒されたことを書いたものである。癒されてスッキリしたことを「心を洗われた」と表現している。「洗う」によって抽象物である「心」を洗うことができるものとして実体化する点で比喩となる。そのような比喩的判断を「感じる」によって受ける。

(10) (11) はヲ・ト格の部分に比喩が生じている。しかし、(9) は「感じる」の前のヲ格部分だけを見ても比喩が生じているとは言い難い。これはその前のニ格部分の事柄と相互的に比較することによって両者の結び付きが比喩であることに気づくものである。このように主体・対象・判断のいずれを明示するか、そしてそれをどのような格関係のもとに置くかにより比喩の生じ方に差が生れる。この差異は【表3】にて示した「感じる」の取る構文の意味パターンのうち、②と③の対立となる。

直喩は被喩辞と喩辞の比較による相互作用が重要である(李 1990) ことを踏まえると、【表3】②を用いる表現は感覚対象が喩辞によって表現され被喩辞が明示されていない表現となり、直喩として認めることができない。これらの用例のうち、直喩として認定できるのは【表3】③のように対象に対して主体の判断が下されたものである。それに照らし合わせると結果として【表4】①④⑤⑧の11例が「感じる」が比喩指標として用いられた直喩の候補となる。また、そこから(9)のように比喩かどうかの境界的な例を除くと①「<対象>ニ<思考>ヲ感じる」の内の2例となった。

#### 4. 考察

ここまでの分析により「感じる」の持つ構文の中から直喩となり得るものを確定した。確例は2例であり、これは「感じる」を比喩指標として認定することの難しさを意味する。比喩指標として認定するよりも、「<対象>ニ<思考>ヲ感じる」のような特定の構文環境に置かれた場合に例外的に比喩指標に似た機能を果たすと捉えたほうが実態に即する。中村(1977)における出現数の少なさもこの点から理解される必要がある。以下は、例外的ながらも比喩指標と同様の機能を果たし得る条件を考察する。

##### 4.1. 比喩指標の条件

比喩指標は直喩のマーカースとして比喩性の明示を担う。比喩指標の典型例である「よう」は命題に対する話者認識を表すモダリティ形式であり、命題がある条件を満たした場合、比

<sup>4</sup> 「被喩辞」は喩えられる事物・事柄を表す言葉。「喩辞」は喩えるために引き合いに出された事物・事柄を表す言葉。

喩指標として機能し得る。そこで、「よう」が受ける命題がいかなる性質を持つものであるかに着目して比喩指標となる条件を考察する。

(12) 燃えるような赤いもみじ (せきしろ『たとえる技術』)

(13) 肌が雪のように白い

(12) は「もみじ」の赤さを描写するために喩辞「燃える」を用いている。「燃える」と「もみじ」は「よう」を用いないと次の(14)のように非比喩として解釈可能なものとなり、比喩的修飾には「よう」が必須となる。

(14) 燃えるもみじ

これは「もみじ」を現実燃やすことが可能な故であり、そのように事実として燃焼しているという解釈を排除するために事実否定的な話者認識を「よう」によって表示する。これは「よう」の取る命題の真偽判断からいえば、偽であることを表わす。「よう」は推量用法の場合、真偽未確認の命題を取るが、ここでは命題が偽であるという認識を表す。

(13) は被喩辞「肌」の白さが喩辞「雪」を引き合いに出すことによって表現される。「肌」が「雪」によって組成されることはありえず、両者の関係は事実として成り立たない。その点で命題は偽である。しかし、事実においては結び付かない「肌」と「雪」であるが、「白い」という点に着目することにより比較することが可能となる。その比較を通して、「雪」の白さのイメージが「肌」に付与される。このように「肌」と「雪」という事実として結び付かない二物が有意味な関係を有する命題を「よう」は取る。

このように命題が偽でありかつ、構成する二つの事物が一定の根拠をもとにして有意味に結び付いている場合、「よう」は比喩指標として機能する。

(15) 一 ① 偽の命題を取る。

② 二つの事物・事柄の間に何らかの関係性がある。

#### 4.2. 比喩指標としての「感じる」

「感じる」は例外的ではあるが「<対象>ニ<思考>ヲ感じる」といった特定の構文に置かれた場合、文法機能として(15)①②のような命題を取ることができる。それが(16)(17)となる。両例ともに使役態によって表現されているが、通常形に戻した場合、「日差しニ質量ヲ感じる」「恋愛運ニもろさヲ感じる」となる。

(16) 梅雨はすでに明け、九州地方は一気に夏模様である。質量を感じさせる強い日差しがビルや街路樹に降り注ぎ、道路に濃い陰影を作っていた。

(PB43\_00054-1540)

(17) どころなく“もろさ”を感じさせる恋愛運。カップルの人は、彼に傷つけられることが多いかも。

(PM31\_00254-68750)

(16) は、「日差し」に「質量」を感覚することはなく、その点で真の情報とはなりえない。本来感覚できないものを前項に置くことにより、取り立てる情報が偽であることを保証する。偽の情報を取るが、「日差し」と「質量」の結び付きは理解不可能なものとはならない。「日差し」がいかなる強さを持つのかをただ「強い」と比喻を用いずに修飾するよりも効果的に説明することができる。それは「日差し」と「質量」を結ぶための共通項が存在し、それを根拠にして両者を比較することにより有意味に結び付くためである。ここで共通項となるのは皮膚感覚である。日差しの暑さは皮膚感覚によって知覚するが、実体としては認知できない。そこで何らかの物質が肌に接しているかのように表現することで、言い換えれば「質量」により「日差し」を実体化することにより程度の強調を行う。しかし、これは一方で(7)で示した「感じる」の持つ語彙的意味である《身体的》な感覚を表しており、実際に感覚しているという表現となる。語彙的意味が存在していることにより「よう」のような文法機能を主に担う形式に比べるとモダリティ形式化の度合は弱い。それは、この表現が「よう」や「みたい」に置換することができないことから裏付けられる〔(18) (19)〕。

(\*<sup>5</sup>18) 質量のような強い日差し

(\*19) 質量みたいな強い日差し

語彙的意味が残存することにより、用いられる場面が(16)のように身体感覚を表す場面に制限される。文法形式化しきれず、使用できる場面に制限がかかることが比喻指標として機能することを困難にしていることを意味する。

(18) は、「恋愛運」がどのような様態にあるかを、それが実際には持たない属性である「もろさ」によって表現する点で比喻となる。「恋愛運」は実体ではない以上、実体物の属性である「もろさ」を持つとするのは偽の情報となる。しかし、伝達における効果としては「よくない恋愛運」のように表現するよりも、当該の恋愛運がどのような属性を持っているのか分かりやすいものとなる。両者ともに些細な接触で傷がつくものであり、そのような共通項をもとにして「もろさ」という属性が付与され、かつ「恋愛運」を実体化する。この例は(16)のように身体感覚を表すものではないが、ある事柄に対しての思考・印象を《判断》している点では「感じる」の語彙的意味が残存しており、(16)と同様にモダリティ形式化しきれていない。しかし(16) (17) とともに(15) ①②を満たすために比喻指標に近い用法となっている。

このように「感じる」は「<対象>ニ<思考>ヲ感じる」という特定の格関係のもと、対象と思考の関係が通常ならば成立しない偽の情報であること、感覚対象と思考が共通項によって有意味に結ぶという命題となっている場合、比喻指標と同様の機能を果たす。しかし、語彙的意味が残存することにより、モダリティ形式化が阻まれ、「よう」のような用法の広さを持たないとして結論付けることができる。

<sup>5</sup> \*は非文を表わす。

## 5. おわりに

本発表は「感じる」の構文を整理し、そこから比喩用法になり得る構文を選別した。それをもとに、直喩として認めることのできる構文を確定し、比喩指標として用いられるための条件を考察した。まとめるならば次のようになる。

- ① 「<対象>ニ<思考>ヲ感じる」という特定の格関係において直喩と認定することができる
- ② 偽の情報であり、かつ二物が有意味な関係にある命題を受けることが必要となる。
- ③ 「感じる」の語彙的意味が比喩指標としての形式化を阻む。

この結果は中村（1977）における比喩指標の認定に対する再考を求める。他の比喩指標についても同様に用例を収集し、構文の整理や意味の分析を施すことにより、それぞれの語が比喩指標となるための条件が明らかになる。このようなアプローチは直喩の有する形式の類型化などの比喩研究への寄与とともに、文法研究と比喩研究を接続しようとするものである。

### 参考文献

- 加藤祥・浅原正幸・山崎誠（2017）『現代日本語書き言葉均衡コーパス』に対する分類語彙表番号アノテーション」, 言語処理学会第23回年次大会発表論文集, 306-309.
- 菊地礼・加藤祥・浅原正幸（2018）「感じる」を指標とするメタファー用例の収集とその分析」（メタファー研究会、発表資料）
- 木下りか（2003）「直喩形式と類似性 —ヨウダとニテイル—」『大手前大学人文科学部論集』4号, pp153 - 164.
- 小松原哲太（2016）『レトリックと意味の創造性』京都大学学術出版会.
- せきしろ（2016）『たとえる技術』文響社.
- 中村明（1977）『比喩表現の理論と分類』国立国語研究所報告 57.
- 鍋島弘治朗（2016）『メタファーと身体性』ひつじ書房.
- K. Maekawa, M. Yamazaki, T. Ogiso, T. Maruyama, H. Ogura, W. Kashino, H. Koiso, M. Yamaguchi, M. Tanaka and Y. Den, (2014) “Balanced corpus of contemporary written Japanese”, *Language Resources and Evaluation*, 48:2, 345-371.
- 李徳奉（1990）「比喩の意味における喩辞と被喩辞の相互関係について」『日本語と日本文学』13号, pp. 37 - 49.